

今、感じる。今。

広島城北高校サッカー部OB会長 19回生 吉川 英司

今年もこの時期になったのかとふと書いて今日「父の日」。周りを見渡すと、家にいるのは：私一人。長男はクラブで試合に、娘二人は「バトン」の大会出場。せめて、娘の大会「入賞」が父の日のプレゼントと。これから5年後10年後はどうなっているのやら：先日、私たちの現役時代の時の監督だった「井上先生」の退職を祝う「慰労会」に参加しました。この会には、ほんと懐かしの先輩諸氏がそろい踏みで、私も指導していただいた当時のコーチであった「岡光さん」東洋工業(現マツダ)も来られており、本当に約28年ぶりにお会いする事が出来ました。先輩諸氏の方々の中には、ほんと見かけだけですが井上先生より「年上」に見えてしまう先輩もいたりで楽しいひと時を過ごしました。田辺(元校長)の酔っ払いの饒舌状況もありであとは、想像してみてください。今年は皆様も御存じの通り3月11日に「東日本大震災」が起こりました。私も仕事柄色々な現地の状況

【最上段のよかけ】

31回生 平岡 栄作

広島城北学園・最上段を卒業して15年、学校・グラウンドを訪れることも正月の初蹴りに参加するときのみでしたが、今年息子が広島城北中学校へ入学し、またサッカー部に加入するという事で、今後学園を訪れる機会が増える事と思います。息子の入学式前に入学説明会へ一緒に参加しましたが、入学説明会の説明を聞きながら、広島城北サッカー部について、思った事が2つあります。ひとつは、自分を支えてくれた仲間たちについて。

5年前に卒業しましたが、それ以来陰ながらいろいろと支えてくれているのは、サッカー部の先輩・同期であること。今とは違い広島県大会出場が目標であり、強いチームではありませんでしたが、自分たちのサッカーで挑戦していくという目標の中で築かれた信頼関係・価値観が大きく影響しているのではないかと考えたこと。自分たちを支えていたのは、「いいサッカー」を求めるチームスタイルだったと思います。事実、同期に会うと「勝てないチームだったけど」「自分たちが弱いチームだったとは思わなかったことない。」という話になります。ふたつめは、最上段でプレーする息子に。

やヘルプに行ったら、会社の後輩達より様々な情報が入って来ました。本件が「人災なのか？天災なのか？」私は原因等を軽々しくコメントできる立場にはありません。ひとつつ言いたい事があります。「リーダーは前例なくとも決断する時はしてほしい。」という事です。色々、この震災を通じて思うことはありますが印象に残っている事例があります。震災後、テレビの画面を通じて病院の屋上や学校のグラウンド等に「HELP」「食料」等の文字がかかっている場面を皆様も見たのではないかと思います。まず、思ったのが取材ヘリから必要なものを「落とせよ!!」。あとで知ったのは「違法」という事。しかし、アメリカのヘリがある学校へ理由をつけて着陸し「救済物資支給」。「なんでやねん!!」アホくさすと本当に思いました。現在、3ヶ月経過してもこの有様。本気で被災者対応(＝原発含め)を進めてほしいと願っている今日この頃です。

息子に「努力する才能が一番の才能である」ということを最上段で実感してもらいたいということ。自分の納得するまで、一生懸命サッカーをしてもらいたい。自分自身、最上段での経験が、現在の自分の努力する源であることは、間違いありません。最上段が、これからはサッカー部・部員たちの歴史・思いをずっと見守るグラウンドであってほしいと思います。

最後に、自分に最上段での経験させてくれたいろいろな人に感謝。

はリード頼みます。やはり、勝負は勝つと負けるのでは世界が全然違うというのは皆理解している事。結果がすべてではありませんが、努力の後「勝つ」快感を部員ひとりひとりに感じさせて欲しいと思います。最近、私もようやく関西地区で会社のフットサルチームM.S.F.Cを結成し、ミズノフットサルクラブに登録し初の大会(＝中級レベル)へ出場しました。結果は8チーム中、最下位。「残念！」言い訳を少し、我が会社のチームは経験者が私以外1人だけ。サッカー好きが集まっています。これは、結果より「楽しみ」を追求です。関西圏にいるOBもしよければ試合しましょう。連絡ください。最後にはなりますが、来年も1月3日に「最上段グラウンド」で初蹴りを行います。まだ参加した事のない当時の同級生を声掛け合せて連れて来て下さい。きつと宮本監督・岩井コーチ・黒瀬顧問が笑顔で迎えてくれる事と思います。

井上先生の「慰労会」でお約束させていただきました先輩の方々、年より専門チームを構成しますので是非ご参加お待ちしております。では、また「初蹴り」でお会いしましょう。「最上段8ヶ条」のさわやかな挨拶をキーワードに。

近況報告

みなさんこんにちは！

ホームページのコラムでもご紹介させていただきましたが、5月14日に、サッカー部OB会主催で、この春に退職なさった元サッカー部顧問、井上雅行先生の慰労会を開催いたしました。

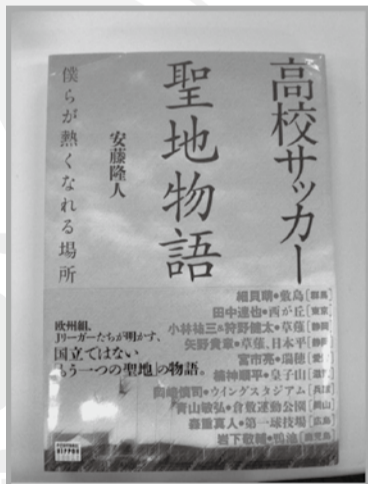
たくさんの方にお集まりいただき、井上先生の38年間を賑やかに労うことができました。

恩師の先生や諸先輩方と楽しい時間を過ごし、たくさんの笑顔と出会い、これからもしっかりと走っていきけるエネルギーをいただきました。

井上先生、本当にありがとうございました。

それともうひとつ、みなさんこの本をご存じでしょうか？

Jリーガーや海外でプレーする選手たちが、それぞれの原点ともいえる、高校生時代に戦った思い出深い場所(聖地)、つまり地域に根付いたメインスタジアム等にもつわる様々なストーリーを綴った一冊で、広島では広域公園第一球技場が紹介されており、そこに広島城北高校サッカー部が登場しています。



「広島皆実、全国制覇の“裏物語”」

第87回全国高校サッカー選手権大会(2008年度)において、見事全国優勝を果たした広島皆実高校の地域予選初戦の相手が広島城北高校でした。

苦戦した我々との対戦(もちろんこちらの感覚では善戦、いや、惜しいゲームでした…)から始まった日本一への道のりを、当時の皆実高校の主将・監督がふり返っておられます。

その時の皆実高校のチーム状況が結構くわしく紹介されており、「そんなことがあったんだ。」という感覚で興味深く読ませていただきました。

みなさんも是非手に取ってみてくださいね。

広島城北高校サッカー部コーチ 岩井 竜彦(24回生)

QPONのひとり言

あっという間に20年

最上段に帰り20年が過ぎた。

この20年間何をしてきたのか…何を生徒たちに伝えたかったのか

若い頃のノートには、「仲間」を作ってほしいと書いてある。

自分も苦しかったとき、助けてくれる仲間がいた そんな仲間が最上段でできたらいいなと

自分勝手に生きるのではなく せめて、身近な仲間には認められ 共に成長してほしいと

俺もたくさんの仲間にも認められるように成長していこう。 『教え子』という仲間も大勢になったし…

文化勲章を受章した彫刻家の平櫛田中さんは 100歳の時 50年分の木彫用の木材をまとめ買いしたらしい

俺も まだまだ、成長するよ！



広島城北高校サッカー部監督 宮本 誠(19回生)